

平成24年度 在宅医療連携拠点事業
活動発表

釜石市における 復興を内包した地域包括ケア連携

在宅医療連携拠点事業

チームかまいし

寺田 尚弘

地域の背景・拠点の紹介

盛岡市の東南約100km/三陸沿岸

人口：約4万人

高齢化率：約34%

東日本大震災の死者・行方不明者数

釜石市：1061名（2.5%）

拠点事業主体：釜石市/一般枠

名称：『チームかまいし』

拠点の特徴：行政と地元医師会との強力な連携／釜石医師会から在宅医療専門医がチームアドバイザーとして派遣。



他地域に広がってほしいアイデア

- 在宅医療の位置づけを地域医療全体の共通認識に
- 介護版死亡症例検討会
- 出前講座：民生児童委員協議会定例会
- 復興を内包した地域包括ケアのまちづくり

他地域に広がってほしいアイデア（1）

多職種連携：在宅医療連携体制検討会

在宅医療の位置づけを 地域医療全体の共通認識に



他地域に広がってほしいアイデア（２）

介護版死亡症例検討会

- 多職種研修事業/普及・啓発事業
- 死亡症例を振り返って学ぶことは多い。

「あのときどうすればよかったのか？」

「自分ならどうしたか？」
- 当時のケアチームがそれぞれの職種の立場から症例を振り返りながら、紹介、考察、発表を行う。
- グループワーク



グループワークと発表

症例の紹介



地域に広がってほしいアイデア（3）

出前講座：民生児童委員協議会定例会

- 啓発・普及事業/多職種連携事業
- 地域をよく知るキーパーソンの集まりであり、医療にも関心が高い人々。

ターゲットを絞った啓発・普及活動

- 比較的短時間で効率的な講習が可能。
- 地区ごとに時間を見つけて出向く（出前）予定。
- 今後は老人クラブとの連携も考えている。

コミュニティ再生を視野に新たな連携先の開拓

こんな感じで、アットホームに



被災地の視点から 復興を内包した地域包括ケアのまちづくり

- キーワードは**コミュニティ**
- 震災を通して初めてわかったこと
 - ❖ コミュニティの意味
 - ❖ 社会的健康の喪失と回復
 - ❖ 健康の社会的決定要因の回復
- 古くて新しい問題
『コミュニティの再生』
- チームかまいしの役割
 - ❖ 広がる連携の可能性
 - ❖ まちづくりにおける多職種連携



ご清聴ありがとうございました。

